

平成 23 年 3 月 30 日

各位

石油資源開発株式会社

インドネシア共和国カンゲアン鉱区のテラン・ガス田における生産テストについて

当社の持分法適用関連会社であるカンゲアン エナジー インドネシア社(Kangean Energy Indonesia Ltd.、オペレーター)は、カンゲアン鉱区の中核となるテラン・ガス田の開発作業を 2010 年1月から本格的に開始し同年 7 月からは FPU(洋上生産施設)の建造、そして同年 11 月からは生産井の掘削を進めておりますが、このたび掘削予定坑井 5 坑のうち、2 坑の水平坑掘削および海底仕上げ作業を終了し、これらの坑井について生産テストを実施、計画通りのガス産出に成功いたしましたので、お知らせいたします。

生産テストでは、設備上の上限値である日産 3 千万立方フィート(85 万 m³)を記録し、圧力解析などの結果から、計画産出レートである 1 坑あたり日産 6 千万立方フィート(170 万 m³)の高い生産能力を持つことが確認されました。

テラン・ガス田は、バリ島北方 90km の海域(水深 90m)に位置するガス田で、テラン・シラスン・パトゥール の 3 つのガス田の集合体である TSB ガス田の一部です。テラン・ガス田は、TSB ガス田開発プロジェクトの第 1 期工事として、2012 年 3 月の生産開始を目指して作業を進めており、生産量は日産 3 億立方フィート(原油換算で日産 5 万バレル)を予定しています。

海底に設置した生産用坑口装置から、一旦海上の FPU を経由して処理したガスは、近くの海底に設置されている東ジャワパイプラインへ接続・出荷し、東ジャワ州スラバヤ市近郊の国営電力会社や肥料工場などに販売されます。

このガス供給により東ジャワ地域でのガス不足状況が改善され、この地域の経済発展に貢献するものとインドネシア政府などからも大きな期待をかけられています。

このテラン・ガス田の生産開始後、引き続き TSB ガス田のシラスンおよびパトゥール・ガス田を対象とした第 2 期開発工事に速やかに着手すると共に、既発見未開発ガス田であるカンゲアン島西方海域のウエスト カンゲアン・ガス田の評価井掘削および開発計画策定を急ぎ、更なるガスの安定供給を目指します。

一方、大規模な原油の胚胎が期待されるサウス サウビ・プロスペクトの試掘計画を推進し、油ガス探鉱開発トータル・プロジェクトとして、本事業を発展させて行く所存です。

以 上

(参考)

当社と三菱商事株式会社は、2007 年にエネルギー メガ プラサダ Tbk 社(PT Energi Mega Persada Tbk.: EMP Tbk)が100%所有していたエネルギー メガ プラタマ社(Energi Mega Pratama Inc.: EMPI)に共同でそれぞれ 25%資本参加し、同社の子会社であるカンゲアン エナジー インドネシア社他を通じてインドネシア共和国バリ島北方沖合カンゲアン鉱区を保有し、共同で操業しております。

添付資料

■ カンゲアン鉱区とテラン・ガス田位置図

